

コロナ前水準には未だ届かず

～アルコールを伴う外食の状況～

はじめに

本稿では、当研究所が県内在住の女性を対象に実施した、アルコールを伴う「外食」状況についての調査結果を報告する。調査では「コロナ前、コロナ禍、5類移行後のそれぞれの期間における月間の外食回数」を尋ねており、「自身が飲酒をしない場合でも、同伴者が飲酒する場合」も1回とカウントしている。

※アンケート調査は2023年5月18日（木）～20日（土）に、20代～60歳以上の計520名（各年代104名）を対象に実施した。

調査結果

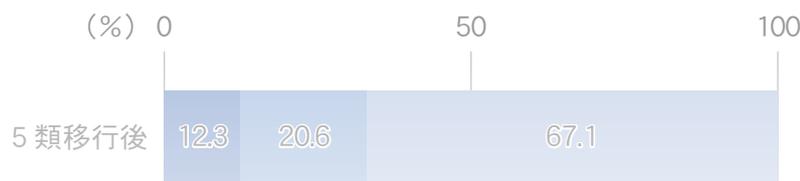
- 外食の回数は、コロナ前の約7割の水準。
- コロナ前と5類移行後を比べると、20代と50代は回復のペースが早い。

(1) 頻度の状況

5類移行後（以下、移行後）は、月に1回以上外食をしている割合は32.9%となっている（図表1）。コロナ禍の26.2%を6.7ポイント（以下、p）上回っているものの、コロナ前の48.9%と比べると▲16.0pと、約7割の水準となった。

また、コロナ前は「月に複数回（23.7%）」と「月に1回（25.2%）」がほぼ同程度であったが、移行後は「月に複数回（12.3%）」が「月に1回（20.6%）」を8.3p下回っており、頻度が減少している。

図表1 期間別の外食の状況(回答者全体)



以降は会員専用ページにて公開しております。

ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページよりアクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

(入力は何分でも完了します)

[会員の方ははこちらから](#)